

1 濤沸湖において施設整備を行う背景

濤沸湖のあらまし

- 重要な渡り鳥の中継地
- ワカサギなど内水面漁業の漁場
- アッケシソウなど多様な植物が生育
- 野鳥観察などのため多くの方が来訪

- 網走国定公園
- 国指定鳥獣保護区

▪ ラムサール条約登録湿地

ラムサール条約登録湿地として

瀧沸湖は、国際的に重要な渡り鳥の中継地であり、様々な鳥類の生息地



毎年、ガンカモ類が6万羽以上飛来し、オオヒシクイなどの希少種も数多く飛来する。



瀧沸湖：平成17年11月、ラムサール条約湿地に登録

多くの生きものの生息地であり、生活環境を支える重要な生態系である湿地から、人と生きものが互いに恵みを得られるよう、保全・再生を図る。

地域の人々の健康で安全な暮らしや産業とバランスのとれた湿地の保全を推進する。

保全・再生

ウィズユース
(賢明な利用)

ラムサールの三つの柱

交流・学習

保全とウィズユースを進めるには、人々の交流、情報の交換、学習・教育、普及啓発活動が不可欠であり、個人や機関が経験を共有し、互いに学び、連携する機会を設けることが重要である。

ラムサール条約登録湿地の役割

拠点施設に求められる目的

- 自然とのふれあい
- 環境学習、普及啓発
- 調査、研究
- 保全活動
- 地域における交流、情報交換
- 情報発信、発表

などができる場所の提供

拠点施設に求められる機能

- 展示
- 観察
- レクチャー
- 調査、研究活動の支援
- 傷病鳥獣の一時収容
- 地域やボランティア活動などへの支援